要領様式第２号

出張報告届

令和3年11月22日

吹田市議会議長様

会派名　民主・立憲フォーラム

代表者氏名　　山本　力

出張者氏名　　西岡　友和

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出　張　先	松山市内（ANA クラウンプラザホテル松山）
期　　間	令和3年11月11日　から　11月12日　まで　2日間
出張の成果	別紙のとおり
備　　考	

吹田市議会事務局
3.11.22
受付

中核市サミットの考察

2021年11月20日

民主・立憲フォーラム　西岡 友和

基調講演では、ポストコロナ時代に求められる中核市の役割として、東京大学大学院 工学系研究科の教授である、羽藤氏の基調講演、そして松山大学 檀教授　愛媛大学の前田教授、富士通Japan執行役員の竹岡氏、東京理科大学の伊藤教授によるパネルディスカッションを拝聴した。コロナ禍は、人々の生活や働き方のみならず、企業のビジネスモデルや行政サービスにいたるまで、様々な変化をもたらした。その中心にはDXがあったように思う。行政における役割は重要であり、とくに中核市はその規模、権限からも時代の変革の担い手となるべきである。ディスカッションでは、参加している中核市、それぞれのデジタル技術を活用した地域の課題解決などにつき共有した。民間企業では、自社が成し遂げた成果、実績を他社と共有することはありえないが、中核市同士なら、その成果を共有することになんの弊害もない。今回のサミットでは、その事実をいかに共有すること、そして実際のサービスに活かしていくか、その答えまでは確認できていない。

一方、それらに対応する人材や資金、ノウハウにいたっては、今後、自治体ごとの偏りが生まれると想定される。さまざまなステークホルダーが連携して、中核市が多様な主体をつなぎ合わせる役割を担うべきだとの意見があった。

市町村の規模及び能力に応じた権限移譲の形として、中核市においては、これまでの都市運営の経験と長年培われてきた十分な行財政能力を備えている。併せて中核市移行に当たって移譲された数多くの事務を円滑に処理している実態を考えると、周辺市町村をリードする中核都市として地域の発展に貢献するといった役割があると同時に、コロナ禍から回復する経済、社会の中心をになう事を十分に認識し、ポストコロナの社会をけん引して行きたい。

また、松山市の公共交通について現地にて視察を行った。道後エリアは日本有数の観光地として、ローカルのみならず地域の移動手段として路面電車が循環をしている。ＪＲ松山駅までは県外、市外から乗り入れ、アクセスを行いラストワンマイルといった部分において、地域の特性と風情を活かした交通として、活かされている。さらに幹線道路沿いの路上駐車を無くし、歩いて散策ができるよう工夫がなされていた。

最後に、中核市サミットでは、国と地方の役割にあった財源の活用、配分について地方分権に向けた取り組みを大きな枠組みとして主張して行く為にも、その役割は小さくないと感じた。中核市市長会においても同規模の62市が連携し、国等に共同提案を行っているが、こういった横のつながりをいかに構築するか、アフターコロナにおける最重要課題である。吹田市の街づくりにとって、大いに参考となる企画であった。

以上